

平成25年度

第9回 碩田中学校区適正配置地域協議会

日時：平成25年6月25日（火）

18：30～20：30

場所：大分文化会館 第2小ホール

－ 会 議 次 第 －

開会のことば

会長あいさつ

議事

- 1 防災に係る専門家の意見聴取について
- 2 碩田校区の小中一貫教育について
- 3 各校区における協議結果の報告について
- 4 その他

閉会のことば

## 議事

### 1 防災に係る専門家の意見聴取について

### 2 碩田校区の小中一貫教育について

### 3 各校区における協議結果の報告について

#### (1) 各校区の報告

#### (2) 質疑・意見等

### 4 その他

#### (1) 今後の日程について

○第10回地域協議会の開催について

7/30(火) 18:30～20:30 大分文化会館 第2小ホール

○第11回地域協議会の開催

9/2(月) 18:30～20:30 大分文化会館 第2小ホール

## 碩田中学校区適正配置地域協議会の協議スケジュールについて

開催期日	協議事項	配付資料・視察等
第4回 H24.12/20(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域協議会規約について</li> <li>・ 今後の協議事項について</li> </ul>	
第5回 H25. 2/ 5(火)	今後の協議日程等について	1/31 大分市立賀来小中学校視察
第6回 3/ 4(月)	新校舎の位置について  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地震、津波対策等の防災について</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中一貫教育について</li> <li>・ 児童生徒の通学環境について</li> <li>・ 校舎の機能について</li> <li>・ 地域コミュニティの形成について</li> <li>・ その他</li> </ul> * 実施時期について（確認事項）	2/28 福岡市立照葉小中学校視察
第7回 4/16(火)		3/ 4 各小中学校の面積等の資料
第8回 5/14(火)		4/16 わが家の防災マニュアル
第9回 6/25(火)		5/14 児童生徒数等の資料 各小中学校の通学路資料
第10回 7/30(火)		
第11回 9/2(月)		・ 小中学校施設事例集の資料
第12回 10/1(火)		
第13回 10月下旬		
第14回 11月下旬	○協議の取りまとめについて	・ 協議に必要な資料
第15回 12月下旬		

\* 第12回までの会場：大分文化会館・第2小ホール 第13回以降の会場：未定

## 1 防災に係る専門家の意見聴取について

### (1) 専門家の方々（五十音順）

- 工藤 宗治 大分工業高等専門学校都市・環境工学科准教授  
研究分野：土質力学、地盤工学、地盤環境工学
- 竹村 恵二 京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設教授  
研究分野：地球物理学、地質学
- 花宮 廣務 大分工業高等専門学校客員教授 気象予報士 防災アドバイザー  
指導内容：気象、地震、防災
- 三次 徳二 大分大学教育福祉科学部教授  
専門分野：理科教育学、地球科学

### (2) うかがった意見の要旨

#### 地震について

- 南海トラフは50年以内にかなり高い確率で起きる。別府湾、別府地溝南縁断層帯の中で府内断層の活動周期は中長期的なものであり、まずは南海トラフを想定することを勧める。
- 別府湾、府内断層を想定することは必要であるが、これに対応しようとするれば相当の財政負担を伴う。日常の生活と危機への備えのどちらかに比重を置きながら対策を考えて備えなければならないが、現実的には、発生確率などからして日常の備えに重きを置かざるを得ないのではないか。
- 府内断層は、現在の科学的知見を持ってしても確定的なことを言うことは専門家でも情報が足りない。地下が揺れた場合、どのような形で表面が壊れるか分からない。
- 府内断層の場合、この校区全体が大きく影響を受ける。断層が予想される線は引かれているが、その下の状態は解けていないことがたくさんある。
- 別府湾または府内断層の場合、ゆれや津波の被害の程度は、3小学校区とも大きく影響を受けるのではないか。
- 府内断層で起こる地震の場合、北側が沈降するとは言われている。また、地表にどう出るかは確定的ではない。
- 府内断層が地表に出現した場合、耐震性の極めて高い建造物であっても倒壊することから、断層型を想定するのであれば、むしろ断層から少しでも遠い方がよいのかもしれない。

#### 地震発生時の避難・避難所について

- 南海トラフの場合、住吉小と碩田中は、大分川と住吉川に挟まれており、津波の被害を考えると危険とも言えるが、周囲に避難ビルがないので、高層化した学校ができれば防災の観点から重要性は高い。中島小、荷揚町小は近隣に高層化した公共施設がある。校区の住民全員の防災という観点でも総合的な議論が必要である。
- 南海トラフの場合、大分に津波が来るまでに時間があるので、その時の対応などを協議する必要がある。
- 避難する場合、津波到来までの時間によって一次避難、二次避難など避難方法が違ってくる。時間がない場合、高いビルに避難することなどは有効である。
- 南海トラフなどの場合、JRとの協議もあるだろうが、高架、駅ビルなども利用できるであろうから、とにかく駅まで逃げるといった意識が必要ではないか。
- 防災教育によりどう行動するかなど、知識だけではなく実際の状況を想定した演習が大切ではないか。

#### 校区の特性、地盤・液状化対策などについて

- 碩田中学校区は40～50mの沖積層であるので、液状化現象はどこでも起きる。大分駅付近までは液状化の可能性が高い。
- 軟弱な地盤であるので、千葉県浦安の液状化対策などは参考になるのではないか。
- 横尾貝塚があるように、昔は横尾付近まで海である。トキハ会館付近でも掘れば海の化石が出る。

- この校区は大分川の三角州の上にてできている。川の流れも現在の状況は異なり、蛇行していた。どこが陸でどこが川かなど、時代によって異なる。
- 液化化対策は、運動場に杭を打つだけでも違う。地面の動きが抑えられればよい。軟弱な地盤であるので、密にしないと緩んでしまう。
- 避難所を考えた場合、校舎だけでなく、運動場、取付道路付近まで液化化対策を検討した方がよい。
- まずは今後 50 年の子ども達と、地域の安全のためにも学校を建てようということになるが、地震だけでなく日常生活の中ではるかに確率の高い台風や洪水などの対策が重要である。

#### 校舎（耐震、設計、工法など）について

- 近未来的に南海トラフが想定される。周辺の様子によっても異なるが、4～5 m ぐらいまで津波が予想されるので、地震で倒れない、耐震性のある校舎が絶対条件である。
- 福岡の照葉小中学校は、西方沖地震後に建てた学校のようなので建て方など参考になるのではないか。耐震性など想定 of 1 ランク上くらいのレベルの学校を建てるくらいでないと住民も安心できないのではないか。
- 南海トラフとともに、断層型を想定するのであれば、震度 6 強の揺れにも対応できる学校にするということしかない。
- 浸水が予想される地域なので、校舎の 1 階をフリースペースにして、2 階から教室にするなどの工夫も検討してみてもどうか。
- 校舎の高床式も考えられるが、柱だけでなく壁耐震の考え方からするとあまり勧められない。
- 校舎には外階段を付け、防犯上の課題はあるが、そのまま屋上に行けるとか、1・2 階は水が突き抜けやすい構造にしておくなど、建築の専門家に相談すれば色々なアイデアがあるはずである。
- 駅付近まで土地の状態は似ているので、駅ビルの建て方も参考になるのではないか。建設場所が決まれば地盤調査を密にし、より強固な建物を建てることになる。
- ヘリポートも視野に入れるならば、運動場の対策なども変わる。
- 子どもが学校に居る時間は、年間の 5 分の 1 程度である。残りは家や地域にいることを考えると、学校は防災ビルとして活用することが有効である。

#### その他

- 災害は、建物（ハード）だけで対応することは不可能。防災訓練や教育などのソフト面を一緒に積み上げていく必要がある。
- 大震災以降、想定外は許されないとされるが、科学にも限界がある。
- 大分が大深度地熱温泉地帯といわれるのは、深い所まで簡単に掘れるということ。

#### ◎新校舎の位置について

- 新設校の位置は、教育の観点、防災の観点など総合的に考えるとよいのではないか。
- 碩田中学校区は全体的に軟弱な地盤であり、全域あまり変わらない。細かく言うと同じ小学校区でも場所によって条件が異なるので、毎日の生活の中で安全・安心な場所を考え、(i) 子ども達が通って都合がよい、(ii) ネットワークの良い所がよいのではないか。
- 碩田中学校区内における危険性については、個別の災害で見た場合では多少の差があるものの、総合的に検討すると、どこに建設しても大差はない。
- 校区全体に軟弱な地盤が広がっている。位置を検討するのであれば、今の子ども達の環境を優先し、学校は耐震性を絶対的なものにするということになる。
- 色々な状況を想定すると校区に学校が建たなくなる。普段の生活を考えて選択することになるのではないか。

## 2 碩田校区の小中一貫教育

はじめに

碩田の「碩」には「大きい」「優れている」とか「立派な」といった意味があります。この校区で育つ子ども達には、広く大きい心、たくさんの知恵、そして大きな夢を抱きつつその人生を歩んでいって欲しいと・・・私たち碩田校区の教師は願っています。

### 小中一貫教育は私達教師を

●●●●●仲間にしてくれました! ●●●●●



小中一貫教育の取組みがなかったら、私達は今まで通り同じ校区の小中学校の教師でありながら、ほとんど会話を交わす機会もなかったでしょう。せいぜい小学校6年生の担任が、来年1年生を担当するだろう中学校の先生と入学前に情報のやりとりをする程度で終わっていたはずです。

同じ校区にある小学校なのに、やがて同じ中学校に進学する子ども達のいる学校なのに、小学校同士も、互いの情報交換を進める意識も薄く、過ごしていたはずでした。小中一貫教育の取組みがなければ、確実に今のようにつながりは持っていませんでした。



\*合同研修会で、公開研究発表会で、地域の清掃活動で・・・。私達は多くの場面で顔を合わせ碩田校区の

碩田中では清掃に力を入れ「輝中(ピカチュウ)実行隊」が組織された事が小学校の職員室でも話題になりました!



～顔を合わせることで 会話が増えました!そうしたら～

**情報がぐ～んと増えました!**

小中学校間の会話が增えました。以前は、同じ校区の教員でも、顔も知らず、名前もよくわからず。でも、それは当たり前感覚でした。小中一貫教育の取組みが始まる前のお話です。

けれども、この取組みがスタートしてから・・・。顔を合わせれば挨拶を交わすようになりやがて小学校は、送り出した先の中学校で子ども達がどんながんばりをしているのか、活躍の様子を知ることができるようになりました。

また、中学校は今日の前にいる子ども達が、小学校でどんな学習を積み重ねてきたのかを知ることができるようになりました。これまでは、ごく一部の限られた教師間の情報であったことが、小中一貫教育を進めることによって、多くの教師が情報共有できるようになりました。

情報は、「子ども達に関すること」ばかりではありません。

「今の学校教育で求められていること」「学力の向上や体力の向上に関する指導法の工夫や改善」等々。こうした情報の交換は、私達教師の資質を高めてくれるものでもあります。

顔を合わせ、情報を交換し、語り合うことは、私達教師が碩田校区の子ども達に対して、より「質の高い教育」に取組めることだと考えています。



## 今、私達が取組んでいること

～足並み揃えると「教育効果が大きいもの」を～

授業始めと終りの挨拶・姿勢・指名  
されたら返事・相手を見て聞く・・・

身なり  
時間を守る

地域の方へ自分から挨拶

「私達は碩田校区の子ども達を育てる教員!」

そうした自覚は「チーム碩田!」という、校区の教師の力を結集したチームの力で、校区の子ども達の教育に取組もうという意識に変わってきています。

碩田校区の子ども達の育ちを見る時、「私達教師が(児童が)当たり前に行えることを確実に身につけさせていないから、様々な教育課題が生じている」という反省に突きあたりました。「今一度、当たり前に行うべきことは何か」を見直し、それは「教師として当然、子ども達に指導し、身につけさせなければならないであろうこと」であるから、これについては碩田校区の小中学校の教師が足並みを揃えて徹底してやろうとしています。

「誰もが同じ方向性で指導し、それを徹底することは、やがて同じ中学校に進学する子ども達に戸惑いがない」「何より子ども達の成長において教育効果が大きい」と考えています。

碩田校区にある教育の課題は、仲間とのチーム力によって、より有効にそしてより効果的に解決できる。そうした考えを基に、今、年間4回の小中学校の合同研修会、公開研究発表等に取り組みながら、「これは共通してやろう」とするものを提案し、互いの実践を出し合って情報を交換し、点検し、さらに工夫すべきことを確認して実践に取り組んでいます。

## このままにしてはおけない!!

小中一貫教育は校区の教育課題解決の手段

～校区の子ども達はこんな課題を抱えています～



自分で課題を見つけ解決する等、主体的な学習態度を身につけること。

最後までみんなによく聞こえる声で、はっきりと話すこと。

話を聞く態度に気を付け、内容をしっかり聞き取ること。

地域の方々に、自分から気持ち良い挨拶ができること。

言いたいことが自信を持って話せること。

これまでの3年間、この課題を解決するために複数の部会を設定し、研究を重ねてきました。けれども、校区全体の研修会や各校の学力向上会議等では、上記のことが、今現在まだまだ課題として指摘され続けている実態があります。

こうした校区の教育課題を解決するために、「部会」を設置し、それぞれの部会の部長がリーダーシップをとって研修を進めています。この部会には管理職も所属し、指導助言にあたります。本年度は以下のように部会を開設しました。

\*テーマを検証する為「研究3部会」「活動3部会」を設けています。

○研究3部会～「理科（生活科）」荷揚町小学校、 碩田中学校  
「体育」 中島小学校、 碩田中学校  
「道徳」 住吉小学校、 碩田中学校

○活動3部会～「学習」「生活」「特別活動」を設けています。  
「学習」 →荷揚町  
「生活」 →碩田  
「特別活動」 →中島

今年もたくさんの方々に来て頂ければ・・・



\*本年度は10月18日(金)が公開研究発表会です。

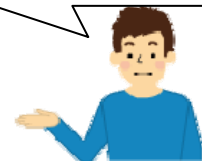
## 教師達の「学びの場」づくり

確かな理念と具体策を!

小中の合同研修会は年間3回です。

- 第1回合同研修会～テーマ・研究内容、方法・組織等を決定します。
  - 第2回合同研修会～具体的な活動の提案及び進捗状況の点検・工夫改善策
  - 第3回合同研修会～取組みの総括・来年度の計画
- 上記以外に「転入職員研修会」「小中合同授業研究会」も実施しています

変る時代に  
変らぬ教師であって  
はならないと・・・



※「小中合同授業研究会」とは、小学校の校内研修会に中学校も参加するものです。小学校の代表が提案授業を行い、小中学校の教師が、一緒に授業後の研修会を行います。

※さらに年間4回の4校協議会(校長・教頭・教務・推進担当)を行います。

四校の、しかも校種の異なる学校が、話し合いや研修を進めると、とかく遠慮がちになり、話し合いが停滞してしまいます。そのため私達は、「忌憚のない意見交換」「率直な意見交換」をモットーにしています。そうすることが、私達の「教師力を磨いてくれる」と考えています。

## 子ども達も交流を

碩田校区は距離的、規模的な問題で、小中学校の交流活動が実施しづらい校区です。けれども、昨年度までの取組み(合唱コンクールの練習参観・校区内の清掃活動・車椅子マラソン選手との交流会)を通して、「小学生が中学生の活動の様子を見ることで、身近な所に『めざす自分像(憧れ)』を描くことができる」「中学生が『自尊心』や『自己肯定感』を抱くことができる」等、児童生徒の交流活動の効果が十分認められており、「交流のしづらさ」を克服して取組む必要性が明らかになっています。

■本年度の交流活動予定

- ・地域清掃活動
- ・挨拶運動
- ・文化祭りハーサル
- ・5年生合同少年自然の家



\*昨年度は六年生と中学生が校区内の清掃活動に

「児童生徒にとって良い」と思えることは、前向きに取り組むようにしています!





# ●●学力も! 体力も!何があっても生き抜く力をこの子達に●●

この笑顔  
が励みで  
す!



## ■しっかり学力を付けます!

校区内の学力向上会議は年間2回。各校の校長、教頭、教務、そして学力向上の担当者が集まります。学力検査の結果を細かく分析し、小中の比較もします。校区の子ども達の学力は「何が十分身についていないのか」「その原因は何なのか」「今後の取組みは具体的にどうしたら良いのか」を話し合い、各校に持ち帰り、実践に移します。特に小学校においては、より成果のあがる実践の情報を交換し、他の学校に広げ、共に実践に取り組むことを確認しています。

## ■そして、しっかり体力を付けます!

今年の提案授業の一つに「体育」が入っています。「碩田校区の子ども達は華奢」「小学校の体力テストで全国平均を下回るのが複数個所ある。」そうした課題を克服すべく、「きっちりと指導すべきことを指導して、身に付けさせれば体力も向上する」という考えのもと、研修を進めています。

提案授業をするのは、中島小学校と碩田中学校ですが、こうした取組みの成果は、研修の度に成果や課題等を他の先生方に広げていこうとしています。



こうした意味でも、これからは、小中連携も非常に重要になっています!

## 小中一貫教育を進めていて

## 良かったことはありますか?」と聞かれたら・・・

年度	授業構想	授業展開	子ども理解	協働	保護者	地域住民	研究推進	適切な対応	情報発信	企画推進	情報活用	自覚責任	その他
22	7	10	14	8	1		5	4	5		2	1	
23	11	4	12	5			3	5	3	1	4	6	
24	25	31	72	51	9	8	21	9	10	3	19	6	0

※1 中複数小連携型校教師対象「取組を通して教師としてどの様な資質が向上すると思うか」3つまで選択可

これまで私達教師は、「チームとしてまとまって仕事をする」という意識が、やや弱かったかもしれません。集団で仕事をしているように見えても、意外に個人の価値観や教育観といったものが先行しており、「わたしは私のやり方で・・・」で進むことも比較的多かったようです。

けれども、小中一貫教育の取組みを進めていく中で、「子ども達にとって・・・」で判断をする時、「みんなでやることによる意味(成果)」を意識せざるを得なくなりました。

多くの教師の意識をつなげ、思いをつなげるということは、そう簡単なことではありません。

ですが今、「みんなで取組んだ結果」が、子ども達の授業態度に、学力、体力に、そして何より心の成長に表れ始めているのも事実です。今年もまた新しい仲間を迎え次への一步を踏み出しています。

### 小中連絡会で情報交換が

6月20日に碩田中で小中連絡会がありました。中学1年生の担任の先生方と小学校6年生の時に担任だった先生方との情報交換会です。授業参観を行い、学習・生活の両面から学年主任の執行先生からお話がありました。

こうした機会を通じて、小学校の指導で何が不足していたのか。児童生徒理解を進め、より良い指導に取り組めるようにしています。



### 3 各校区における協議結果の報告について

視点	事項	観 点 例	・教育活動の成果や課題 ・小中学校の連携の範囲 ・実施可能な形態 など
子 ど も の 生 命 と 教 育	小 中 一 貫 教 育	荷揚町小学校	<p>防災の観点から児童生徒の生命安全を守ることを大前提とし、その上で小中一貫教育を考える。</p> <p>②どのような型が望ましいかについては、それぞれ一長一短があり、決定的な選択肢はない。</p> <p>現在取り組んでいる「連携型」で特段の支障もなく成果を上げているようなので、さらに工夫し進化した「連携型」を目指すべきである。</p> <p>③以上から、建設地は「荷揚町小学校用地」が望ましく、進化形「連携型」を採用すべきと考える。尚、用地の問題は、隣接地の借用、他校用地の利活用、建設用地内を人工地盤で多層階活用を行えば、建設可能である。</p>
		中島小学校	<p>①一貫教育の実施について、関係者の尽力により大いに成果があると考える。具体例としては、イ) 学力水準の向上 ロ) 小中学校の連携による系統的教育課程や小中協働行事等の実践等 ハ) 小中学校の独自の運営による適切な学校運営や生徒指導等々がある。これらは、現状の連携型一貫教育と、これまでの小中学校独自運営の相乗成果であり、今後も更なる改善を図りながら、継続進展すべきであると考えます。</p> <p>②しかし、一貫教育はあくまで教育の手段であり、今回の統合の主たる目的ではない。その形態については、新設校の場所を決め(立地優先)た上で、小中学校の位置関係に即した一貫教育の“型”を選択すべきである。</p> <p>③また、一貫教育の形態の比較検討については、当協議会の委員として講演会や授業参観に参加してきたが、高度な専門知識や学校関係者や保護者、地域の考え等が必要であり、協議期間の制約、委員の構成等から、実績のある連携型一貫教育を継続すべきであると考えます。</p> <p>④中島地区協議会としては、中島に新設校を立地し、これまでモデル校区として実績のある“連携型”を継続して、新設校の早期立ち上げを図り、統合による一中学校一小学校体制の利点を活かして、連携型一貫教育の更なる拡大進展を図り、市のリーディングスクールを目指して欲しいと考えます。</p>
		住吉小学校	<p>碩田中学校敷地内に施設一体型小中一貫教育校の新設 その最も大きな理由として柔軟性のある教育カリキュラムの作成である。</p> <p>小中一貫教育においては、現在の連携型の小中一貫教育では、先生方や子ども達の接する時間は限られたものであって、尚且つ日常の様子も分からないため掘り下げた交流までは至っていない。</p> <p>②保護者としては、碩田中学校が塾に通わなくても学力が養える学校であってほしいという期待があるので、施設一体型の小中一貫教育によって、9年間を通じた教育カリキュラムの作成によって、子ども達一人一人にきめ細やかな学習指導の可能性に期待したい。</p> <p>③施設一体型の小中一貫教育の実施により、児童と生徒の新たな交流が生まれ、小学1年と中学3年という日常では交流ができない環境が整うことで、お互いに心の育成に繋がる。また、先生方にとっても、交流や協力がしやすい環境となり、多数の教員によって高校進学までの導きが期待できる。保護者においても、9年間を通じての交流ができ、単一的な計画はもとより、長期的な学校支援の計画も可能になり、まとまりが更に期待できる。</p> <p>④賀来小中学校や照葉小中学校の視察において、まだまだ発展途上ではあるが、確実に学力面やコミュニティの面で子ども達に成果が見られていることでの、委員さん方の印象はよいものであったと判断しております。</p> <p>⑤運動会や卒業式においても、議論を重ねていけば、現行の6・3制を残し、運動会は年間2回実施し、卒業式も6年時に実施できる柔軟性をもった教育カリキュラムは実施できるので、メリット・デメリットに拘らず、問題点は即座に解決していける学校組織にすればよいと思う。</p> <p>⑥大分市教育センターが碩田中学校横にできるため、その連携によって先生方の研修や子ども達の見守りなどには適した環境である。</p>

視点	事項	観 点 例
子 ど も の 生 命 と 教 育	通 学 環 境	<p>荷揚町小学校</p> <p>《 平時 》</p> <p>① 3校統合後は、校区面積が広がるので、危険箇所の現場確認を行うとともに、歩道や交通安全施設の整備等に関し、関係機関へ要望しながら、児童生徒の安全・安心を第一に、最も効果的な通学路を選定する必要がある。</p> <p>② 学校・保護者・地域がこれまで以上にスクラムを組んで、登下校時を中心とした児童生徒の見守り態勢の強化充実を図っていく必要がある。又、集団登下校の是非についても検討する必要がある。</p> <p>《 大震災時 》</p> <p>① 防災の観点から児童生徒の生命安全を第一に考え、在校中のみならず登下校時における通学路に関しても十二分な防災対策が必要と考える。</p> <p>② 登下校時において、襲来する津波被害減災対策に、既存の高層建築物が無い場合には、当該地域内に<u>津波避難タワー</u>の建設が必要となる。</p>
		<p>中島小学校</p> <p>① 今回の統合で、通学環境が大きく変わり、多くの児童が通学距離が大幅に長くなるなどの影響を受ける。特に、低学年の児童には、かなり厳しくなることも想定されます。このため通学の負担の出来る限りの軽減と、通学路の安全確保を最優先にして新設場所を決定すべきであると考え。</p> <p>② 中島小学校は碩田校区のほぼ中央部にあり、通学距離が校区内全域で2 km 以内、他の校地より平均通学距離や通学時間の短縮を図ることが出来る。また、中央部にいることから通学ルートは学校周辺の各方面に分散され、歩行時の安全、交通事故防止等の面からも有利であり、児童にとって新設校の校地として最良の場所と考える。</p> <p>③ 碩田校区内各地域からの通学では、駅前通り、昭和通り、中央通りや中島十条通り等の交通量の多い通りの横断が必要になる地域があり、通学路を調査し、地下道や歩道橋、信号の設置や歩道の整備等を検討する必要がある。</p> <p>④ 中島校区では登下校時の見守り活動は、地域や団体、PTAの人達により実施されており、子ども達とのふれあいの場ともなっている。学校、保護者、地域が協働で子どもたちを育てるという観点から、今後も各地域毎に継続されるべきと考え。</p>
		<p>住吉小学校</p> <p>① 大きな地区では住吉校区の碩田地区、中島校区の新川地区を除けばほとんどの小学生が現在の通学距離から遠くはなるが、中学生と一緒に登下校することで一定程度の安全性が確保できる。</p> <p>40m道路の横断に際しては、新たな道路網の整備を、大分市全体で整備計画を進めることで、行政全体を巻き込んでの整備を実現したい。</p> <p>③ 学童保育に関しても、今まで通りの時間が下がった下校では、距離が長くなった分保護者は心配だということが、懸念されるので、PTAや地域が協力して何らかの対策は必要であろう。中学生の部活動の終了時間との調整によって、何らかの協力が得られるかどうかの協議も必要であろう。</p> <p>④ 安易にスクールバスなどの要望もあがってくる可能性はあるが、一番遠い荷揚町小学校校区からでも2.2 kmであり、他中学校区の小学校と比較しても、通学可能な距離であり、現実味としては乏しい。</p>

視点	事項	観 点 例
子 ど も の 生 命 と 教 育	荷揚町小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全及び避難所としての機能</li> <li>・校地を有効活用できる工夫</li> <li>・地域との連携を支える機能 など</li> </ul> <p>①地震・津波対策に万全を期し、最大限の耐震構造が望まれる。津波避難ビルとして機能するとともに、最終避難場所として機能しうよう、新設校は、5～6階建て以上で、廊下・階段・踊り場などを出来るだけ広くし、屋上にも避難できるようにし、ヘリコプターが発着できるようヘリポートも必要。</p> <p>②碩田中学校区は市中心部に存在する地理的条件下にあり、児童生徒、地域住民のほか、大震災発生時には、中心部で働く勤務者、更に市外、県外からの来訪者を含めた、帰宅困難者への対応が必要。</p> <p>③大震災時には、活用不可となりますが、平時において資材運搬・車椅子利用者の利便性確保の為にエレベーターの設置も望まれる。</p> <p>④帰宅困難者まで収容することを想定した人数の利用者に対応でき、下水道が利用不可となっても対応できるようなトイレ対策や、プール貯水時に飲用転用できるよう濾過装置も望まれる。</p>
	中島小学校	<p>①長時間の避難や風雨寒さから身を守るには、校舎が適しており、地域の要援護者、高齢者、幼児や保護者等の避難にも利用できるようにすべきである。</p> <p>②避難施設として、夜間休日の避難も可能にし、避難用資材の備蓄が出来る場所を確保すべきである。</p> <p>③統合後の空き施設の地域活性化、地域活動への積極的活用を推進するべきである。(体育館、グラウンド 等)。</p>
	住吉小学校	<p>①今後、近い将来建て替えが訪れる碩田中学校も交えて4校で一体型の新設校を建設することで、集中的に防災対策や避難所機能を備えることができる。</p> <p>②避難所機能として重要視される体育館を2階建てや3階建てにし避難所拠点として利用できるようにするとともに、備蓄倉庫も完備できる。プールも上層部に設置することで、災害時の生活用水に利用できるなど利点が多い。</p> <p>③体育館や図書館などを地域に開放して、地域全体で子ども達を見守れる機能も持たすことが可能である。</p> <p>④公民館などの地域開放型スペースを学校内、もしくは体育館内に併設し、地域住民の力を活用した学校となる機能を備える。</p> <p>⑤碩田校区には私立幼稚園や0歳から入園できる泉町保育園、または住吉保育所といった未就学児との接点が多い地域ですので、その未就学児との交流ができるスペースも整備することで、0歳から15歳までの子ども達を教育できる文教地区としての機能が期待できる。</p> <p>子ども達の「食育」が最も重要視されている中で、ランチルームの整備は必須であり、食を通してのコミュニティの構築が必要であろう。</p>

視点	事項	観 点 例
地 域	地 域 コ ミ ユ ニ テ ィ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域づくり</li> <li>・校区における防災・避難対策</li> <li>・自治会活動への影響 など</li> </ul> <p>①学校は、地域コミュニティ及び防災の拠点でもあり、小学校の統廃合問題は、単に教育行政だけの問題ではなく、市全体のまちづくり計画の一環として位置付けが必要となる。人口増対策必要。</p> <p>②これまで同様の3小学校区毎の活動を基本とし、3校統合した活動を将来の努力目標とする。</p> <p>③内閣府は、津波の危険が大きい学校は計画的移転を提言し、避難者が収容能力を超過する場合にはトリアージ(選別)を導入検討(大分合同新聞平成25年5月29日参照)。</p> <p>④③を受け、新設校は当然ながら、<u>新設校以外の旧小学校区(2校区)</u>においても防災拠点としての機能を継続して維持しうよう、現在の校舎を耐震補強し、あるいは、新たに新規施設を建設し、これまで以上に<u>地域住民の避難場所</u>として、又、<u>地域再興の拠点</u>として機能しうよう、物資備蓄、トイレ・シャワー等の衛生設備、避難者のプライバシー保護、給食施設等を整備充実下さるよう考慮して戴きたい。</p> <p>⑤住吉小学校周辺地域の複数箇所に、地域住民が活用できる<u>津波避難タワー</u>の建設が望まれる(大分合同新聞平成25年6月4日参照)。</p>
	荷 揚 町 小 学 校	<p>①長時間の避難や風雨、寒さから身を守るには、校舎が適しており、避難所の中学校区内への分散化を図り地域の要援護者、高齢者、幼児や保護者等の一時避難に利用できるようにすべきである。</p> <p>また、長期の避難となる生活避難場所として、体育館は3校地とも残し、平素は地域の体育活動等へ貸与して欲しい。</p> <p>②学校は地域コミュニティの核にもなる施設であるが、中島小は中間位置にあり学校と地域との協働事業、地域内のふれあい事業等に至便であり、開催場所としても適している。</p> <p>③中島校区でも、地域コミュニティの形成には、これまでに各団体が種々の事業を通して取り組んでおり、3校区共同の取り組みで、更に地域の活性化が図れると考える。</p>
	住 吉 小 学 校	<p>①PTAとしても、中学校も含めた4校で運営していくことで、保護者の小中の連携が子ども達のコミュニティにもよい影響を及ぼす。</p> <p>②自治会やPTAや先生方を含めたところで、一体型となることで、更なる交流やふれあいの中から今まで以上に横のつながりが強化できることが期待できる。</p> <p>③碩田中学校内に一体型を建設することで、併設した住吉小学校の校地を一体的に利用することで、3校区共同の行事や取り組みなどにも対応が可能である。</p>

